

短報

# 診療記録における国際比較 --- 日中両大学病院の診療録内容を比較検討し、両国の医療の未来像を探る ---

上田 智<sup>1)</sup> 丁 梅<sup>2)</sup>

川崎医療福祉大学 医療技術学部 医療情報学科<sup>1)</sup>

川崎医療福祉大学 医療技術学部 医療情報学科<sup>2)</sup>

2000-12-12 00:00:00+09受理

## A Comparative Study of Japanese and Chinese Medical Records and Possible Effects on Patient Care

Satoshi UEDA<sup>1)</sup> and Mei DING<sup>2)</sup>

*Department of Medical Informatics Faculty of Medical Professions Kurashiki 701-0193, Japan<sup>1)</sup>*

*Department of Medical Informatics Faculty of Medical Professions Kurashiki 701-0193, Japan<sup>2)</sup>*

*(Accepted 2000-12-12 00:00:00+09)*

**Key words:** medical records, pos, pomr, medical information

### Abstract

To evaluate recent developments in the patient-care systems in Japan and China, the present study investigated the medical records at Kawasaki Medical University and the Medical School of Peking University. The findings indicated that (1) there were no items recorded concerning medical insurance in China as there is in Japan since there is no comprehensive insurance in China at present; (2) POS, an effective system for medical record keeping used in Japan, is not yet commonly used in China. In the modern world of promotion of information science, both China and Japan are facing a new revolution in the patient-care system.

### 要約

高度情報化の21世紀の到来に随い、現代医療は重大変革に直面している。患者は医療サービ

スを受ける消費者として、数多くの医療情報を自由に選択できる時代が来るはずである。このように、診療情報の開示のため、診療録に対する関心が高まり、現在の診療録の内容充実、科学的に記載方法について検討することが必要となった。本研究の北京大学医学部附属病院と川崎医科大学附属病院の診療記録における国際比較の結果をみると、中国の北大病院と川崎医大病院の診療録の記載項目には、基本的には大きな違いはなかった。その理由は患者診療の手法には両国の間で違いが認められなかった。しかし、両大学病院の診療記録の記載方式は次の違いが認められた。(1)中国では保険診療制度がないため、これに該当する項目が存在しなかった。(2)診療録記載方法では、日本の川崎医大病院ではPOS(Problem-Oriented System)を採用しているが、POS形式による記載項目が中国の診療録中には認められなかった。次世紀に向けて診療記録の改善をも視野に入れてゆく必要がある。換言すれば、標準化の推進とか、POSの普及とか、特に中国の方は論理的(科学的)に記載方式とされるPOMR方式を導入することが期待される。POSによる患者中心の診療制度を基本として、日本および中国の医療の質や効率の向上することを期待している。

---